

事例

4 学年 「くらしと電気」

本時のねらい：これまでの学習を基に、資料から読み取り考えたことを比較・分類したり、関連付けたりすることを通して、持続可能な電力供給のために自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりする。

ICTを活用した考えの共有・吟味による、選択・判断の充実



自分たちの考えを相談しながら吟味する。

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

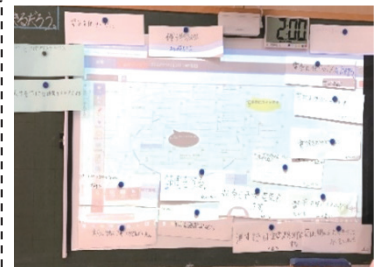
- ・「共同編集×思考ツール」の活用により、共有化された友達の考えを基に、比較・分類したり、関連付けたりしながら自分の考えを吟味する姿
- ・問いに対する予想を立てる際に、多くの資料の中から自分なりの予想の根拠となるものを取捨選択し、確かな根拠をもって自分の考えをもち、課題解決に向かおうとする姿

こんな姿を引き出すために…

ICTの活用

○思考ツールを活用したワークシートを共同編集することで、「家庭や学校」、「地域や企業」など電気を消費する立場ごとの節電対策について比較しながら考えることができた。これにより、自分以外の消費する立場にある人の節電への取組を踏まえた上で、自ら考えた「自分が節電に協力できること」を実現可能性や効果といった視点から吟味し、選択・判断することができた。

○クラウドシステムを活用し、個に応じた資料の閲覧環境を整えることで、個別の興味関心に応じて授業場面以外でも、見学時に撮影した動画や発展的な資料を閲覧できるようにした。これにより、繰り返し動画を確認するなど、自分のタイミングで資料確認ができるため、調べたことを基に深く考えることにつながった。



共同編集により、リアルタイムで友達の考えに触れられ、自分の考えとすぐに比較することができる。



学習環境の工夫

学習形態の工夫

【学習問題を追究する～収集した情報を共有し合い、思考する場面～】

- ・クラウドシステム以外にも、教室や廊下における資料の閲覧環境を設定し、個別の興味関心に応じて見学時に撮影した動画や発展的な資料を閲覧できるようにした。
- ・学習内容を、誰とどのような手段で調べ、どのような形でまとめるのかなど、児童が自分で学習方略を考え、実行し、修正できる学習形態で授業を展開した。



事例

3 学年 「私たちの暮らしと現代社会」

本時のねらい：自分で見いだした現代社会の特色が、現在および将来の日本の政治・経済・国際社会に与える影響について、見通しをもち課題解決に取り組む。

学習者に学びが委ねられた授業

～既習事項を活用し、見方・考え方を働かせる学習者の姿～

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・学習課題（コロナ禍で、「〇〇化」はこれからどのように変化していくだろう）の解決への見通しをもつために、どのような方略（個人 or グループで解決、どのような資料が必要なのか）で学習を進めていくのか考える姿
- ・学習課題の解決を目指した本時における自分の学びはどうだったのか、次回以降にどのように生かしていくのかを考える姿

自分が設定した方略で学習課題の解決に取り組みます。途中で方略を変更しても大丈夫です。



こんな姿を引き出すために…

学習課題の工夫

こんな姿を引き出すために…

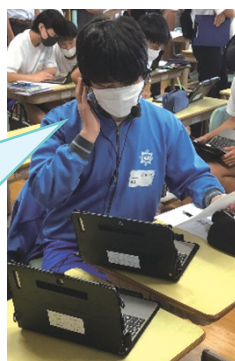
評価方法の工夫

「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う」ために、生徒が「学んでみたい」と感じる学習課題を設定した。具体的には、「私たちが生きる現代社会と文化の特色」の学習内容に現在の情勢（コロナ禍）を掛け合わせた単元構成とし、学習に現実味をもたせた。

「自ら学びを調整するには、メタ認知の能力が必要」とされている。本事例の授業者は、毎回の授業において、学んだことではなく、学んでみてどうだったかという視点から振り返りを行っており、生徒のメタ認知能力を日頃から育成していた。

ICTの活用

調べたことをもとに自分の考えをまとめたシートを作成し、クラスの掲示板に投稿します。



本時は「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業であった。それを可能にしたのがICTの活用である。

本時では、ICTを調べるツールとしてだけでなく、調べたことをもとに自分の考えをまとめるプレゼンテーションのツールとして、更には、まとめたことに対する仲間からのアドバイスを収集するツールとして活用していた。

その結果、教科書に掲載されているもの以外の現代社会の特色について自分なりに見だし、その特色が現在および将来の政治・経済・国際社会に与える影響を多面的・多角的に考察し、表現する活動を充実させていた。